

57

寛永諸家譜

清和源氏癸七冊之内
支流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(57)	
函號	特	76	1





牧野
死郷
竹中
柴田

寛永諸家系圖傳

清和源氏

癸二

交流

牧野

河波氏が重能が嫡子因幡備前教能
が後胤之河小河りて牧野氏と称せ

淺草文庫

成定

右馬允 生國之河 同出牛久保の城小徑と

東照大権現小治之小治之
永禄九年十月廿五日卒す
法名光暉

康成

右馬允 従五位下 生國岳城同前

大権現

台徳院殿へ修入奉り
成定死去の後一族出羽守と康成と

職代何々々ひあしと

大権現乃伯りより康成家督と

沖連判の沖書下下りなりび

下野守信えりへ

一 後取 雜沓降申之有

付之事

一 主所おるが志切

有る事

一 判形花角後河方

許容有る事付 徳信人成五六

人成くすお汁

右条く不可有るお進若也の如件

永禄九年

愚藏

五月九日

家康沖判

牧野右馬允受

之後沖禱の康の字と給り康成と

号す又

大権現の位ふりて奉別後務原とよ

りて武田信玄とおふ

天正四年務頼とよとて後川具富

此城成まると

同十年後川具富とよと

同十一年

大権現小条氏政と不和より川と共とす

めく小田原小寺じき給ふと此康成

先づけと受け給ふ

慶長十一年十二月十二日卒と五十五歳

忠成の事跡

法名栄感

忠成

右馬允 延五位下 生國同前

越後守 是比城ノ后

大権掾

台徳院殿小侍ノ事 神澤ノ忠ノ字ヲた

まふ事後

將軍家ノ侍ノ事

寛永十一年七月廿日 延五位下に叙

儀成

帯刀 生國上列大室

寛永十年九月初め

台徳院殿

將軍家ノ侍ノ事

同五年 神書院沙番ノ勅

台徳院殿薨御ノ後

系不審

將軍家より入る御書院番成勅也

同十一年御小姓組の御番成勅也

同十八年七月御命小僧御小姓組

此頭と此家

同十九年正月 御小僧御書院番成勅也

重成

新三郎

成次

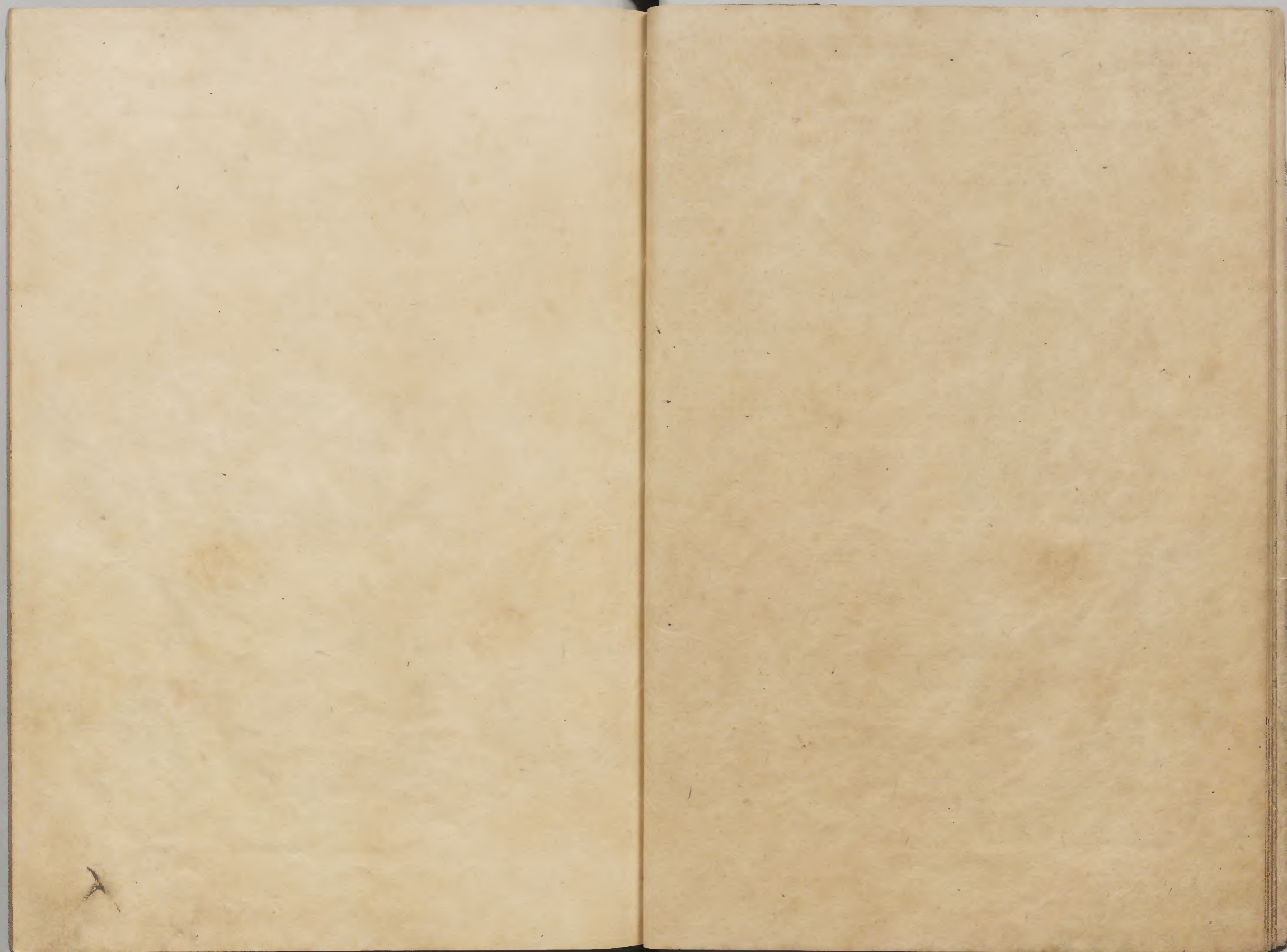
七之助

家紋丸の内小之葉柏

勅小僧御十六葉丸

帯と先祖より御小僧御書院番成勅也

乞阿り



牧野まきのの

家傳けだん小いしく阿波あいのえ氏うぢ重能むねが嫡男ちやくなん

田内たのち乃の清きよつ尉ゑい教能けうねが後胤ごいんなり

今案いまあんじりに牧野まきの氏うぢと出取でとり成祥なりさむらひ

小世こよ寸重すんぢゆう能ねが先祖せんぞも又また分わけ的てきなりなり寸すん

志しれども瀬波せなも康成かうせい因ゆゑ近ちか野の伝成でんせい

作渡さくわも親成おんなせい位ゐ下げに叙きよ正せい海かい野の

口宣くちのぶ源げん氏うぢととり是こゝは傳つたへ今いま

あにりす

定成 さだなり

山城守 生國之河

東照大権現小治久も於

元龜四年死と 法名順感 のりかん

康成 やすなり

讃波守 生國同前

大権現小治久も於

文祿五年五月十日恒位下小叙と のりかかげ

文長五年二月廿日死と五十二歳法名 のりかん

宗哲 のりたけ

信成 のりなり

内通歌 生國を列 のりくに

文長五年関原陣の^{はら}に信成法名 のりなり

三後

大権現の御命ふより

台徳院殿小治り年終

同十年正月廿六日位下に叙す

同十一年 位より引く大沙妻の歌となり

同十五年 位より引く沖小治の歌

となり引く大の御書と勅じ

台徳院殿三列田原山に引く沙欄乃と位

年す

同十九年 沖書院書院からとなり終

同年の冬大坂沙陣れをき位もす

え和えとれ書 位より引く井伊揚の歌

孝より引く大沖妻の歌となり引く伏見の

沖妻の勅じ大坂幕礼の時 御命によ

り大沖妻の歌五十騎と引く伏見より

と引く大坂小おもしろ

同九年大坂城沖妻の勅め御書と大坂

より引く小おもしろ

台徳院殿小治り

お軍家よほくも

寛永三年 釣命えんめいふより江守えしゅ御ご為な法はふ

番ばんの紐ひもとなり御ご為な法はふ子こと沙さ法はふ

同十八年八月二日

竹千代君沙さ誕生たんじゆ月九日御ご七しち奉ほう此こゝ御ご祝しゆ儀ぎ

おとき信成のぶなり

お軍家の命によりおつとまなりとほく

もりのこもとききれ 信のぶ成なり御ご為な法はふ家け

おほくくまとすまぐよま代だい勤けん功こうと感かん

おりのめすふより

竹千代君へ御ごけなまりまく

同二十年てんねん朝鮮せん國王こわう

竹千代君ちよの頃ころ一いっちりち二に使しととせせくく朱しゆ聘へいと

七月七日之使し江戸えどより翌あした日ひ信成のぶなり

竹千代君ちよれ上かみ使しとして二使にし此こゝ宿しゆく房ぼう中ちゆう指さし之し

小こ赴しゆはは是こゝとと妙めうぎぎらら同どう十五じふご日にち

お軍家の信のぶとと信成のぶなり位ゐ下げ小こ叙ぎよせせ

是こゝ御ご然ぜん旨しめ何なにりり同どう十八じふはち日にち之の使し也なり城じやうして

皮國王の別幅とうげと産志をくを

竹千代君の献寸時信成

竹千代君の沖奏者よりと彼に礼曹

書管なりびに別幅は信成におく候

信成と又返管なりびに音物とはかす

分より之使御膳となふ時信成

竹千代君れと使として中務寺におよじき

國王に送りたまふ御別幅なりびに御音

物等と持して之使よさげく又

竹千代君より別之使以下朝鮮人となふ

取の銀子等信成乞と配分してさげく

さげく

親成

佐渡守 生國長為

お軍家へ送りたまふ

寛永九年十二月廿七日恒位下り叙と

同十年正月十七日御振書に設とうげ

たよりにて奥方より伺作す

同年九月五日御歩此致と申す

同十九年二月十九日御書院書此致と申す

之上騎馬歩率同心を以て

御前らくるに候り

尹成

八丈史 生國同前

御軍家より候り

義次

信正

小笠原左衛門 生國同前

系圖別より

太島左衛門 生國同前

將軍家より候り

教成

主殿 生國同前

竹下代君より候り

車成 くるまなり

長初 ながはつ

生國月前

竹子代君は流りくも

家紋丸の内は まぐら 葉柏

先祖忠節 せんぞのたけ 何り

時みこと ときみ のり のり 十六葉 じゅうろくは は は 落着 おちつき と と なる

い い 家 いへ 秀 ひで 吉 よし 此 こゝ 時 とき は は い い り り て て 朝 あさ 廷 てい 御 ご 紋 もん なる

ふ ふ の の り り と と 葉 は 柏 かしわ は は あ あ る る 心 こゝろ

為卿いひ

● 正負せいふ

彈だん正せいたた束たの

軍十二景ぐんじふにけいはくはく病びやう死し法はふ名な的てき傳でん

正勝せいしやう

彈だん正せいたた束たの

法はふ名な的てき傳でん

東照大権現とうしやうたいこんげんよよははくくふふそそののままののまま

永禄五年九月十九日、東之川氏正勝
が領地よりひきさらし、時正勝嫡子元正
一少く討死し、今川氏正勝領地
より、男清負景海より取りて、
時正勝の川氏正勝と、ひきさらして、
と報せんす

大権現より、
百助兄弟大湊、
植村世明と渡邊久兵衛、

と、清負と、
清負と、
清負と、

元正

孫六郎
法名惠玄父と同時よ死す

清負

孫九郎
たぬの尉

大権現を、
大権現を、

小屬して先づけとかなる幸列御賜乃後
大権現の御氏が代に忠節と感表し給ひ
て御感書とくごころり

今度宇治は山東筋肝要に作らる物引付
此沙知行に成れ地忠祝忌作先少當
座る為替代之百貫地お吉良河橋之
百貫作の式百貫小法師知行百貫
井谷銀渡並中山之上東筋お
留成作とお遊作の可き作事

御忠節に成る名
此後向後如在中
る愛と杉妻細な忠の厨行意事今の
如件

六月五日 松壽 家康沙判

西丸 系

文禄三年十二月十日病死六十二歳法名
日極

家負

孫九郎 彈正左衛門

元龜二年二月原合戦の時家負家負と

かう家時家時十六歳

大権現家負家負が幼弱幼弱して去勇去勇の事事と感

ト婚婚ふ

天正三年長篠合戦長篠合戦の家負家負は

秀吉秀吉の列列に發向發向の時家負家負先先ひけり

けしぬりしぬりし赤見赤見れれとら出出よよじじふふよよら

御書御書に始始るる今今は是是と可可持持と

同十八年小田原陣小田原陣の家負家負は

同年下総下総に生實生實と名名取取と

同十九年九都陣九都陣の時時は

慶長二年八月十日病死病死十二歳十二歳法名

日如日如

忠貞忠貞

孫九郎

天正十年十二歳十二歳ああて初初めめと

大権現と稱揚とくち一も於時さきた文字なれは脇指わきさし
と結むすり

夢ゆめと五年ごねん開原ひらき津陣つじんの信のぶと津波つなの
後のち伏見ふし小出こでと上かみ秋あき原はらが四よ宅たく小
居いと

同六月どうりくごくと五月ごご廿七日にじちち病死びやうじと十二じふに歳さい 法名ほふな
得とく叢そう

康負やすうぢ

新太郎しんたろう 出羽守でわもり

兄忠負あにただうぢとやく死しして子こなれよとの康負やすうぢ
その遺い詔みこととけぐ

毎年まいねん正月しょうげつ二ふた日にち津つ福ふく初はつめれとて津つ嘉か例れいと
して石いし市いちとてとて席せきと侍しす

夢ゆめと十年じゅうねん十二月じふにがつ廿にじふ日にち後のち五ご位ゐ下したと叙ぎよす
出羽守でわもり小出こでと

同十八年どうじゅうはちねん六月りくごくと十八日じゅうはちにち死しと二十九じゅうきゅう歳さい 法名ほふな
日ひ玄げん

正負

孫六郎 若校也

兄康負子な此ゆへ正負之家とけく

菱長十九年大久保相換も罷有りて配流

可々新とまき正負 物命小依と相列小田

原よおもひ

同年里見安房守流罷よ更せり新とまき

正負中ぬ出雲も松平母波も同友なる助

戸伏右京を松平も見も大田原海も日根

織部等と同く 物命とありて房

列よ赴き里見が家人と遊致と

同年大坂陣の時正負も友なる助と向

しく 物命と有りて房列の押

となれ

元和元年大坂幕礼の時正負小田原城に在

此押番と勤む

同三年伏見陣城に在番と勤む

同六年伏見乃陣加増有りて房列も授那

小うはれ

同十年十二月廿日あき位下おろに叙まし

了えん任にんど

寛永四年大坂に加番と勅し

同十年清水門しみづかどの沙番さばん又田安たやすにいん番と

勅し

同十一年大坂に在番と

同十五年十一月十日死しむ十六歳はろ 法名

日照ひかり

延負のぶ

孫六郎

寛永元年十一歳少すくて

台徳院殿

將軍家きんぐみをたの福ちかし

同十六年あき家督かどくをつけ

將軍家きんぐみへつく

同十七年十月十日のぶ延負のぶ極村きよくむら常刀とことつ同

とく 鈞命えんめい小依おのり之下きみ總すべ正ただ作し舎や花はな水みづ
と勅とちくじ

同十九年四月十日しゅうじゅうきゅうねんしがつじゅうにち依おのり舎や花はな水みづ
宮内みやうち物もの渡わた邊へ久ひさたた米こめつつよよここす

末すえ負ふ

主しゅ膳ぜん

寛永十七年七月十日かんえいしちねんしちがつじゅうにち死しと 法はふ名な日ひ負ふ

用もち負ふ

主しゅ馬ま

寛永十八年

將軍しゅんぐん家けへへけけ人ひと身み上かみ野の河か波は寺てら繼ついで少すくなく之の書しよ院いん

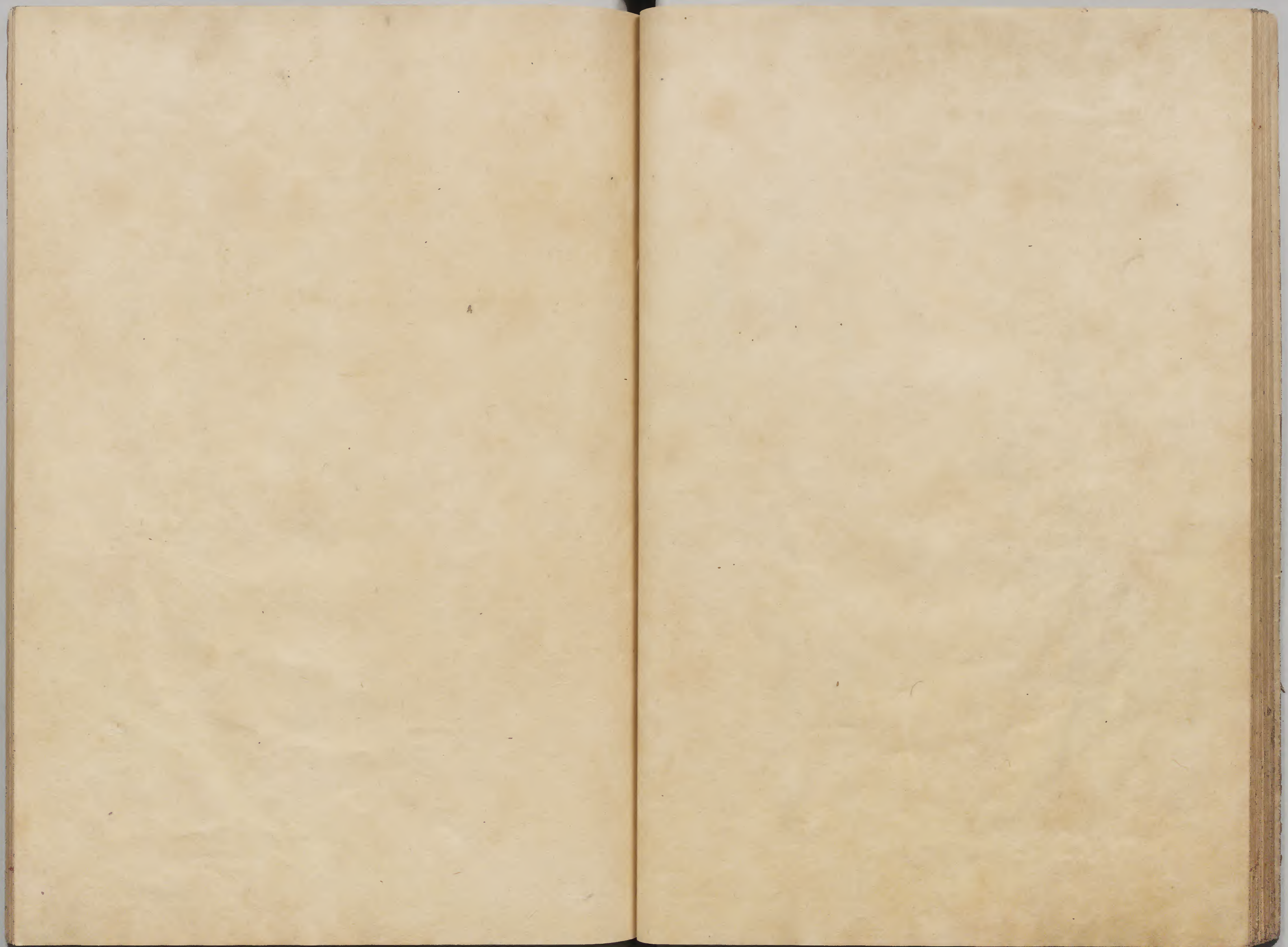
書しよ院いん勅とちくじ

女子

家け紋もん丸まるのの内うち鷹たか作しよ羽う

中ちゆう小せう菊きく相あひ此こゝ紋もんとと為な氏うぢ將しやう軍ぐんよりより給たまりりて

之この後のちよりより也なりといいふふもも今いまけけ紋もん小せう改かへじ



集

竹中

幸江守 英流必池田シタ那ナ小生コシ道ミチく大津オホツ

堂タテマ下シタ恒トコ正マサ

汝ニ最モト山城守道シヤウジウミチ之ノ小属コシユ一ヒト同トウ玉タマ不フ破ハ那ナ岩イハ

此コノ城シヤウ一ヒト居イ之ニ 六十二歳ロクジュウニサイ少シく病ヒヤリ死シ

重治 きげらる

半六 生田 恒取 同前

波友山城守道三 孫新與波阜城

重治十九歳 取河りく才久 十九歳

日く士年十六人 波阜城

重治城に在番 孫新と河りく

外款河りく 河りくは波阜城

河りくは波阜城 河りくは波阜城

七年二月六日 織田信長より重治方へ

牧度使はそと波城と相渡す

波城と河りくは波阜城に属す

河りくは波阜城に属す

河りくは波阜城に属す

河りくは波阜城に属す

河りくは波阜城に属す

河りくは波阜城に属す

河りくは波阜城に属す

某

同七年六月十三日播州之平に病死歳
二十六秀吉より討つて是を討つて軍に
評議ありしにふりては重治が事成ら
おせり

久作
信長よはふ

元龜元年六月廿日河内妙川合戦の時
久作のく人よはふりては明日合戦よ我

かなしと浅井ゆ前もが家人を教給る事
うらとるを——と云りては世にあらまこ
えらり勇士あくけ日伝者とうんと心よ
おけり持さうは久徳奈——てはうてはぬ
ふ事教とうらとる
天正二年長篠合戦の時信長よはふ
ひく教向し
同十年六月六日之十七歳少く徳川不破
郡於依村少く討死

系

彦八郎

織田信忠小侍

天正十年六月三日あけり日向守まへ送まへ信忠のぶ

信忠のぶよ志こころこひくこころ京みやこ都と二條にじょう小こおおくく討う死ち

時小十八歳

重門しげと

丹後守たんののさむらひ 恒立とこたて位下ゐげ 徳列とくりつ不破ふ助すけ忠とむら子こ小こ

生うりり 考しらべ良よ秀しゆ吉きち小こ侍し重門しげと十六じゅうろく歳さいの時とき
秀吉しゆきち此こゝ命いのちによりて恒立とこたて位下ゐげにな叙しよす
安永やすえい五年ごねん石田いしだ治ぢ部ぶのの揚あき三さん成なり孫まご及およ此こゝ時とき重門しげと
之これ頃ころ地ぢ小こ阿ありりてて上かみ方かた小こ侍しとと信しん人にん小こ侍し
是こゝよりより

东照大権現神巫判代沙書とうしょうだいこんげんしんむはんだいさしよと重門しげとなりなりひな
加茂かもの左ひだり兵へい衛ゑとと一ひと通とほ小こ侍しりり左ひだり兵へい衛ゑ重門しげと
がが縁ゆかり志しららゆゆ回まわ取と小こ侍しととりりにによよりり
なりなり一ひと通とほ神かみ書かきににいいくく

五通くまを披見ゆ御ふあ唐首尾
にね遠忠言く版感悦くま山今日二首
あ小田原と馬山急連と教す為
若陣下海とえす入情成行要
公々好々

九月十九日 家康

加友左衛門尉殿

竹中お後さま殿

之後

大権現岡原少く之成と沙合戦此は御旗
下小属寸凶徒敗小此後重門が家人岡原
此山中小おおく小御持はも竹中と生持
て是を献ぐはれ御朱印此御書は御持
小御持はも石持御と入持く版祝と志
く玉ふ当御後若山と好々

九月十九日 家康

竹中お後さま殿

重門小御持はも竹中下の光忠の口とねん

重隆 御命有りて關原ハ重門が御地あり

志ろふと度戰場となりしと云りおが

しゆすよの 治あく八木子石と語り

大坂あ度れ沖陣に信長と後おほい

台徳院殿

將軍家より人をも

寛永八年閏十月九日氏列治あく病

死歳五十九

重常

左京亮 城列伏見此里よ生り

母ハ加友喜江もが女

寛永十九年

大権現

台徳院殿を御福し

大坂あ度れ沖陣よ信長

系

主膳 徳川 岩もようあり

交書六の黒田瓶お書長政なりびよ

右衛門作忠之よはら

系

檀作 生國同前

元和七年

台座院殿とね瑞一あり

寛永元年 百布とねく 沖書院書

女子三人

勅じ

同日年病死

系

母ハ松原伯耆守の女

系

大膳

糸いと

帯たて口くち

女子むすめ之人のひと

家紋いえもん藤ふじの丸まる

竹中

重定

貞場

生國徳列不破郡

秀吉よはらふ

長五年

東照大権現よはらふ

月十年

約命ふりて尾川義直

小治ふ^す後^{のち} 治よ^すり^のわ^りて^の周^の防^の吉^とと^は孫^と
同十五年^ひ病^び死^し六十^と歳

重房^{ちがき}

吉十郎 生国山城^{なまくにやましろ}

安永五年^{やすえご}九歳^{ここのへ}のとき

大権現^{おほいかり}と^いお^も福^ち一^{いつ}も^もり^の重定^{ちがき}が^の家督^{けとく}と^なり

元和元年^{げんわご}孩^たが^ら少^すく^の病^び死^し二十^{にじゅう}日^{にち}歳

重賞^{ちがき}

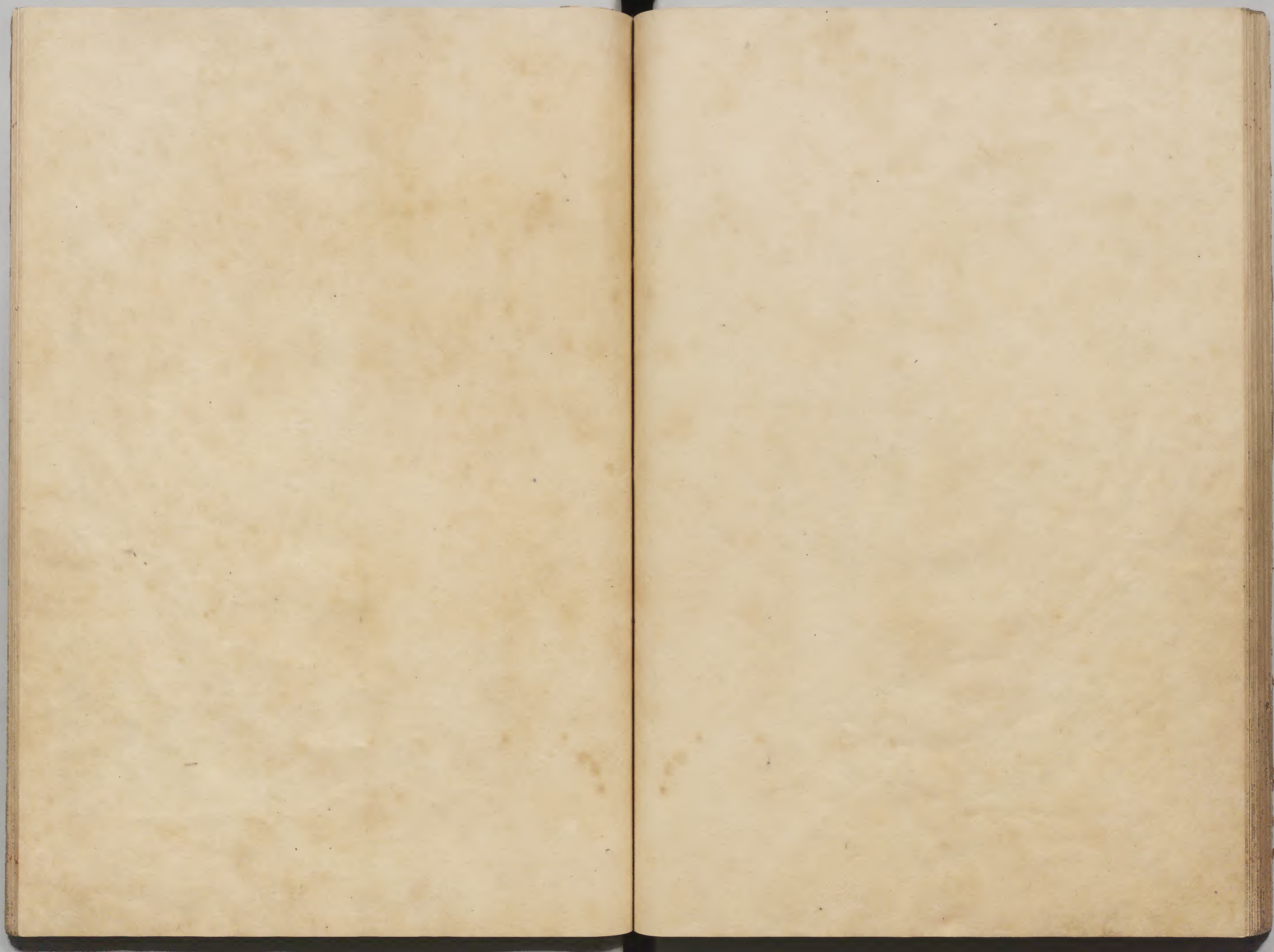
貞清^{さだきよ}の 生国^{なまくに}後^{のち}川^が

母^{はは}八^{はち}藏^{ざう}田^{でん}民^{たみ}初^{はつ}め^めの^の物^{もの}が^が女^{によ}

元和元年^{げんわご} 治よ^すり^のわ^りて^の重房^{ちがき}が^の家督^{けとく}と^なり

はく

家紋^{けもん}藤^{ふじ}の丸^{まる}



柴田 まいた

● 政之 まさゆき

江戶藩 えどはん
生國 なつくに
廣忠 ひろちゆう
御下 ごげ

康忠 やすちゆう

孫七郎

後七九郎と号す ごしちゆう
生國 なつくに

東照大権現之別是倚小沖座のとき隣は
さくまきしうくたひやじゆなり
康忠がら射藝とゆらゆらと名を
矢よこみ教百れ敵とせぐるれ矢り
何りて疵と叫り命とせと守りの教
人敵うれ精兵練士の忠量と感して
つとろれ矢六十ととり何れ又疵と叫
かり死す敵のときとて我陣よと
大権現こまの沖鏡とて忠勇と感

給ひ沖禱の康の字は給りと旗紋
六十之字はけいこま七九部と号
なまふ七九はとかりら六十之英法なり
大権現の治も今より後沖陣れとて
ゆらゆらと沖るれた右ふはよとて
となり

大権現之別を別と沖座治のとき康忠
家老の別あくはなす
元龜三年之吉原合戦のとき石川伯耆守

救正すけただがらみ小河川おががわにて長田信玄ながたのぶげん先子まゝこと
合戦くわせん一軍いっぐんと全まことしてゆり
天正てんしやうのころ藤合戦ふじあひせんのころ先子まゝことあり
て軍忠ぐんちゆうをぬきんづ

同十二年

大権現おほごんげん詣まゐりて真田まゐと陣ちん征伐せいばつの時
康忠やまと町まち口ぐちより城下じやうげにせありて軍功ぐんこうあり
又また丸子まわらじ色いろ小こおぬぬ詣まゐりてお談おだんして見み
番ばん瓜うり勅つとじ一日いちにち康忠やまと物もの見み番ばん小河おがより討うち

真田まゐ歩あ卒そつとすめくたう事ことすて急いそ
なり康忠やまとこととたふく首くび瓜うり討うち事こと
教しやう級きゆうとてよして是こゝ初はつ内うち播は正せい長ちやう康忠やまと小
かりいぢみたう又また佐さ川がわ依よ久く船ふね若わか田たの小こ
屋やよよいいととううああ勢せいとくまきまきよよううり

大権現おほごんげんの傳つたへて康忠やまと河が川がわののまゝ
長田ながた家けにに勇ゆう士し等らあり康忠やまとよよううり
田たと案あん内うち若わかとてああいい若わか尾おれれあ城しろとせあ
とよ依よ久く船ふね軍ぐん士しと討うち沖お味み方かたよ

隆のまゝおり一後甲州に仕置と平
岩七の親者大久保七郎右衛門忠世
びよ康忠よ治修けり親者八甲府
より康忠八伝列 治修那のうら言瀧城と
まゝに

同十八年小田原陣の時忠世康忠
釣命とあり沖先女とあり一後
東沖入五のとき上総よ小田喜城よ赴
き貢税のよ治修けり

同十九年武列羽生城よおまじき一後
同五高苗ふおわく康忠と給り家
文禄二年五月廿六日病死五十六歳法名
東白

康長

七九郎 親後も 伝五位下 生國伝列
母石河十郎右衛門の女
文禄二年康長七歳のとき

大権隈を相賜し奉り 治よりわて

台徳院殿小侍入道とて

寛永五年六月陣北より多作保正

信之小侍とて侍奉しうきより大坂

小助とて豊之江戶小海

同九年火代番の組頭となり

同十年正月廿六日位下は叙一統

小佐時十九歳

同十八年御勤勤とて方々御之

坂陣のとき伊東家より

御陣を勤じ

元和九年御勤勤とて

寛永元年御勤勤とて

同二年御勤勤の頭となり

同三年御勤勤の組頭となり

同九年

御軍家と相賜し奉り又御勤勤の頭

なり

同十年^{（一）} 征^{（二）} 地^{（三）} 七^{（四）} 百^{（五）} 名^{（六）} 此^{（七）} 以^{（八）} 信^{（九）} と^{（十）} 取^{（十一）} 下^{（十二）}
 同^{（十三）} 年^{（十四）} 沖^{（十五）} 小^{（十六）} 姓^{（十七）} 組^{（十八）} の^{（十九）} 組^{（二十）} 頭^{（二十一）} と^{（二十二）} な^{（二十三）} り^{（二十四）}
 同^{（二十五）} 十^{（二十六）} 二^{（二十七）} 年^{（二十八）} の^{（二十九）} 小^{（三十）} 姓^{（三十一）} 組^{（三十二）} の^{（三十三）} 組^{（三十四）} 頭^{（三十五）} と^{（三十六）} な^{（三十七）} り^{（三十八）} 与^{（三十九）} 刀^{（四十）} 同心^{（四十一）} と^{（四十二）} な^{（四十三）} り^{（四十四）}
 院^{（四十五）} 番^{（四十六）} の^{（四十七）} 組^{（四十八）} 頭^{（四十九）} と^{（五十）} な^{（五十一）} り^{（五十二）} 与^{（五十三）} 刀^{（五十四）} 同心^{（五十五）} と^{（五十六）} な^{（五十七）} り^{（五十八）}
 同^{（五十九）} 年^{（六十）} 六^{（六十一）} 月^{（六十二）} 廿^{（六十三）} 二^{（六十四）} 日^{（六十五）} 江^{（六十六）} 戶^{（六十七）} 小^{（六十八）} お^{（六十九）} 丸^{（七十）} と^{（七十一）} 病^{（七十二）} 死^{（七十三）} 年^{（七十四）} 五^{（七十五）}
 十^{（七十六）} 法^{（七十七）} 名^{（七十八）} 月^{（七十九）} 舟^{（八十）}

康久

七九郎 生國良

母^{（一）} 八^{（二）} 永^{（三）} 井^{（四）} 右^{（五）} 近^{（六）} 左^{（七）} 直^{（八）} 勝^{（九）} 女^{（十）}
 十^{（十一）} 六^{（十二）} 歳^{（十三）} 小^{（十四）} 一^{（十五）} 七^{（十六）} 歳^{（十七）} 初^{（十八）} め^{（十九）} 々^{（二十）}
 右^{（二十一）} 軍^{（二十二）} 家^{（二十三）} の^{（二十四）} 福^{（二十五）} 一^{（二十六）} 子^{（二十七）} 也^{（二十八）}
 寛^{（二十九）} 永^{（三十）} 元^{（三十一）} 年^{（三十二）} 釣^{（三十三）} 命^{（三十四）} 小^{（三十五）} 姓^{（三十六）} 組^{（三十七）}
 同^{（三十八）} 十^{（三十九）} 五^{（四十）} 年^{（四十一）} 三^{（四十二）} 月^{（四十三）} 治^{（四十四）} 小^{（四十五）} 姓^{（四十六）} 組^{（四十七）} の^{（四十八）} 組^{（四十九）} 頭^{（五十）} と^{（五十一）} な^{（五十二）} り^{（五十三）}
 同^{（五十四）} 十^{（五十五）} 六^{（五十六）} 年^{（五十七）} 二^{（五十八）} 月^{（五十九）} 布^{（六十）} 衣^{（六十一）} と^{（六十二）} な^{（六十三）} り^{（六十四）} 也^{（六十五）}

康重

新長清 生國野

母ハ上ニ小ノ回ト

家ノ紋ハ友ノ丸ハ回ト一ハ文字ト

● 孫家

柴田

檀六 修程亮 生田尾川 忠智 那織田

信長よはく度くは合戦し勳功何ぞ

信長はよはく度くは合戦し勳功何ぞ

てを以て越前守とたしげらるる所を

家是よはく度くは合戦し勳功何ぞ

小玉のとききくもして越前守と仰て小
此店の城小居す

天正十年六月明初光秀送心より信長

殺せし海へのよきときひ明初と返

治りてあ上海とていともてりて秀吉

播州より上海河りて光秀謀せしは

後播家も京急すも後秀吉と氣持

おんりて信長孫ととりたりては

月くもくして越前へ海路

同十一年冬信秀吉と播家不和あり

柳瀬よおわく信長正とていとも播家終

うらまけ敗心す秀吉うけよりとて

小の店とていし勝家切腹と

系

権六 播家の子

播改

之は東の 生國川前 播家の子

實ハ作らる久右衛門の盛次が嫡男玄蕃允
盛政が弟なり盛次ハ揚家ウ婿年なり
天正十一年秀吉と合戦のとき揚家が
先陣よりみ志津嶽におおしく討死時
小歳二十七 依久良氏平氏より出

勝重

伊吹也 揚家が養子
主後揚家と不和なり秀吉より志津嶽
病死す

揚重

三たぬの 生國越前
揚家没落のとき揚重二歳少く父の
店と立返外祖父日根村に寄居せ
ら道二十歳よりして

東照大権現より入も終すからり
子石と相伝と

安永八年同系陣代と伝は

楚辞集卷之九
楚辞集卷之九
楚辞集卷之九

同十九年大坂陣のとき平野口に
 おおと敵陣へひけ入敷ケ取の戦をひかる
 うれ忠功より陣取陣の後者他五百名
 の加増と給り系

寛永九年正月廿五日病死歳五十二

勝次

帯刀

系

左を

勝定

系

助五郎

小助

女子

女子

堀田氏助書

勝真

三好忠門

生國氏列戸

元和六年九月
將軍家と相賜一書

寛永九年
信よむて揚重が家督と

信

信揚

依久る久たぬ
依久る不干書子となり

寛永十四年九月廿二日死す

揚利

半兵衛

揚重

會田源右衛門
會田七郎右衛門が書子となり

揚忠

少五郎

女子

依久る甚九郎が書

女子

奥山次右衛門が書

女子

版高七六清びたう書め

家紋丸の四小二層このんまる

